

# 消費者の行動が社会を変える

経済のグローバル化により、私たちは世界中から商品を購入することができるようになりました。選択の幅が広がり、安くて便利に買い物ができる一方で、私たちの社会は大量消費・大量廃棄に伴う資源の無駄やゴミ問題が深刻化、快適な生活を追求するあまり大量のエネルギーを消費し、環境破壊も進んでいます。

また、安価な商品が大量生産される背景には、発展途上国の人々が劣悪な労働条件のもと健康被害を引き起こしているものや、児童労働による原材料調達費の抑制によって安い価格が維持されているものもあります。

今、私たちは、自らの消費行動が、社会や経済、地球環境にどのような影響を与えるのか、目の前にある商品の背景には何が起きているのかを考える必要があるのではないのでしょうか。

例えば、商品を選ぶ際は、本当に必要か、安いけど品質は大丈夫か、表示がないけど安全か、環境負荷にならないかなど「批判的思考(クリティカルシンキング)」を常に意識してよりよい商品を選ぶことが大切です。

さらに、私たちが商品を選ぶということは、どの事業者を支持するかという「投票」と捉えることもできます。私たちがよりよい商品を選択すれば、よい商品をつくる企業や製品を応援することになり、悪質な企業や製品はいずれ市場から排除されるでしょう。

私たちの消費行動が、安全で安心な社会、公正な社会をつくることにつながるのです。

また、日頃の生活の中で、無駄な商品を買わないようにしたり、ゴミの量を減らすことができると、環境への負荷を抑え、資源や地球環境を維持していく、持続可能な社会をつくることにつながります。

私たちの毎日の何気ない消費行動には、実は社会を変える大きな影響力と可能性があるので。

小さなことでもできることからまずは行動する、この心がけが「消費者市民社会」を実現するための大きな一歩となります。